そ 7 9

源注拾遺

七止

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

特別
そ
7
9

源注拾遺 第八

畢

国立国会図書館　　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用

源注拾遺巻第八

橋姫

椎本

總角

早蕨

寄生

四阿

浮舩

蜻蛉

手習

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

夢ノ浮橋

橋姫

一 [illegible]

細川幽斎

○今あまいてふ詞のうるはしくおもふ [illegible] 元の

十三元恭紀ノ歴元 [illegible]

空のとよみ欲浮 [illegible]

なりいなんなれおもそ [illegible]

むれ可考

一 [illegible]

○今あまの一つ [illegible] 鶴寸（タヅキ）事十二ノ [illegible] 頭寸（ヅキ）

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9

ガラス使用

とりかへして、つとめ侍りきと、

一　ゑみ、こゑ、けて、こゝろ、ゑみ、

○　今も、百、ゑみ、九よ、羽、累と、起、こと、第、神代紀、鳥、ひ、こと、そ、つ、より、古事紀、日足（ヒタリ）と、書、

よ、育、つ、を、記、と、よ、古事紀、ま、ま、ま

○今案 高辻家本 ヲ誤ツテ社ノ字ヲ
ヲシヘツケタルヨリ誤レルニヤ
ノヨシアシ俊カラクカラレ

一 山のうけもち

○今案 和名鈔云 文字集略云 磯(磯)道 士攀反上聲之重漢語抄云夜未乃加介知 山路閣道也

一 海ちかきたにおほくまぢかき渡
○今案 屋櫂也
俗云 伊加伊

一 沙魚 和名 氷奠

○今案 和名云考聲切韻云 鮒(ヒラ) 音小今案俗云氷奠是氷奠霜鶴之文而尋其義非也 白小奠名也以鮨奠長一二寸者也文字集略云鮨音白漢語抄云之呂乎 魚薄身白色(也)也

一 ひらめ
○今案 新撰字鏡云 寂蓮法師
これいかゝ
一 ひれいかうなり
○今案此條の事は前の字鏡の云ふ所と同

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

椎本

一

六条紀善の宰

一

紅のうすくこきうす花ざくらの匂ひさりげなう

ちるもなほこの枝ぞとおもひいでてうぐひすもなきつべきかな

柳うすくこきの宰

一

山風のはげしくふきおろすあらしの音に

やうやう春の近きをもしりぬるかな

人丸の宮

一

ゆきふりつもるをみて

雪ふかみ

○今年の撰者 春宮亮

一

ふりつもるさとの雪をはらはずてたれをかまたむ

○今年の撰者 第三皇子 高階成忠

一

ふりつもるさとの雪をはらはずてたれをかまたむ

二条院讃岐

うちとけてねもみぬものをうたたかの夢ばかりなる

契りとはいふ

○今年の撰者 伊勢大輔

一

紫野とおぼしきあたりをうちながめて

ちかきほどはしるしの杉もなきものを

なほすぎがてにとふ人のおほかる

大輔の秀句なり

一 水のつきるところに
○今案ニ臨河ニ亭ヲ作リ風ノ清キヲ愛スルヲ云ナルヘシ

一 阿ろ簾
阿簾屏風也
○今案和名云説文云簾竹席也方言江東謂之簾(簾)簷 渠陰二音 和名阿無師路 ま(い)阿ミろと
あるもとおなじ

一 阿ろとは
細ニ
○今案ニ阿ろ和名の阿ないつはりなるへし

一 布ぬき月
○今案ニ布ぬき月ハうるふ月ニ和名ようしよくて訓ニよるなり

一 布ぬき月なくて山のえもたゝぬ
○今案ニ和名の阿ないつはりなるへし
布ぬき月ハうるふ月ニ和名ようしよくて訓ニよるなり
○今案ニ和名抄ニ家長朝臣曰ニ
布ぬき月なくて老の世も山のえもたゝぬ
やうに西の山へ近きところよりてゝ東の山へ近きところよりてゝ
これハ月のゆきゝするよりてゝ東の山ゆ出て西の山へ入ゆゑ山のえもたゝぬ
ゆゑ山のえもたゝぬ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

一 ○今案いろくづ和名云

一たゝ

今案和名云楊氏漢語抄云絡梁多々理下他果反梁ハ梁と
同字なり。延喜式九月神嘗祭注文云金銅多々利二
基金銅麻呂司二合金銅賀世比二枚ヲ々ヲ入ル事ヲ楯
のつゝ用られゝり和名ハ楯のつゝ
ゝ楯を誤ゝ楯ハ似ゝ假名よりけゝ細流ハ川ゝ而
ゝゝ今義解ハ金絲柱とゝりの
六帖
伽馬系ゝゝゝ

此ノ給（タマハリ）珠ノ巻（マキ）ノ

一

ワカナ上ノ事トハ申ナカラ

○今更仮名ノ事云ツノルモ

ナケレドモ六条院ノ

ヲトメドモニ

ヲシヘサセラルル

コトナレバ

コレモ

アルベキ

ニヤ

ソノ人ノツヤ

ヲ

ナンドヲ

ヨクカキ

ヨウ

ヨリ

ソノ

ヘイヲ

ヨリ

ソノ

ヘイヲ

ヨリ

ソノ

ヘイヲ

うはことのてうに侍るかねい山よ
たちわかるふくとすさてうく

一
わかつうなくなりのつゐてこころろ
。今きつ百ふみてすやこ
山ふれいそこのそうにコロオシリ
一
暁の別やまさこそあるめく
細侍らん暁ばかりの
。今あ此多のより
一
鳥のうき夫ぬふとりとよにく
。今あ川今ふ此ふよ

一
あ
奥
。今あ此前
一
わ
。今あ此前
一
い
こ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

[illegible]人のよかるをめ[illegible]この事よりて[illegible]
[illegible]るよい何[illegible]さる[illegible]

一

[illegible]こそ[illegible]の山[illegible]る馬[illegible]いて[illegible]作[illegible]
○今多川[illegible]招きよいこと[illegible]
[illegible]百姓千一よいこと[illegible]の山[illegible]
[illegible]用[illegible]多[illegible]ふい[illegible]かしみて[illegible]
[illegible]作[illegible]こと[illegible]ふ[illegible]こと[illegible]るいあれ[illegible]
[illegible]ていいう[illegible]作[illegible]こと[illegible]
[illegible]作[illegible]古[illegible]の[illegible]
一

[illegible]山[illegible]の[illegible]山[illegible]

仙[illegible]
○今多川[illegible]
[illegible]多[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

いつこより[illegible]
[illegible]
○今多[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 秋にて比ひさしくふりつゝ
おこれいかなるものゝ
ろとやうくうるや
。つゝものゝこゝろを
て姫君のもとにまいるさまも
吟ずるてなり本のまゝ
なり先いうる人の
のつゝまんとまちかねてゐる
よくく上よいはうをもつ
なりそこをりまものゝとう

又そこつゝ人のかくしつゝ引つけてえ
物。ものゝとい
一
ものゝ
細
。今宵よりの
かつゝのものをもりくうも
よりの行るれ像のとてもり
さまでいおはしまさ
一
ものゝ

○今案此事出三
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一
[illegible]

○今案前漢書外戚傳
候之夫人寢病形貌毀壞不可以
見帝願以王及兄弟為託上曰夫病甚殆將不起
一見我屬託王及兄弟豈不快哉夫人曰婦人不修飾
不見君父妾不敢以燕婿見帝師古曰燕婿
上不嚴飾也

一見我將加賜千金而吊兄弟尊官夫人曰尊官在
帝不在一見上復言欲必見之夫人遂轉卻向
不復言轉卻向壁卻轉也故是上不說而起夫人姊妹讓之曰
貴人獨可不一見屬託兄弟邪何為恨上如此夫人
曰云々

一
[illegible]
細
[illegible]
[illegible]
○今案此事外[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

まつかぜとゝもにあるまつをひさしう
まちわびてこゝろぼそうおもひをるに
ことしはいとゞしきまでこゝろぼそうて
ふるさとゝもおもひやりくらすに
○今年此頃のやうなる世にあるハ
物のあはれしらるゝことよりほかハ
なりやうやうおもひ今憂(メノメ)
とやくよりほかハ

一

ゆきをみてこゝろのうちにおもふこと
○今年此頃の中老(ナカヒト)ハ何の
中老(ナカヒト)ハ物(ヲ)おもふ(ヲ)をして心(ウレ)
といふなるべし

一つまをおもひくらしたるものを
細(コマ)いてみればまことにつまをとりて
○今年此頃のやうなるハ
ひとりねするものハ

みのよ頃のやうなるハ
やとおもふもひまあるこゝろなれハ
(イヒ)さやうにこゝろぼそうハ
中老(ナカヒト)ハ物(ヲ)おもふ(ヲ)をして心(ウレ)
といふなるべし
一つまをおもひくらしたるものを
細(コマ)いてみればまことにつまをとりて
○今年此頃のやうなるハ
ひとりねするものハ

五十ウラ

早歳

一 ㊀ 世ゝ
㊁ 今ゝ
世々
一 ㊀ 今ゝ 佐善の二つ
㊁ 俗名
一 寛永
早穂二十文ゝ新穀と神
一 ㊀

○今ゝ物語よ、　天暦の御製

いつとなくえてとふひもなきをいはぬ

この事とりよせ給へ

一　吐まろいそれおろこもと

○今集吐胸白い光りて雑

一　ものいふりそれとこるよくこと

一　ねりこもと年とものもの

○今集吐茎立のこと

一　おもこまをやとものそるかいかり

一　かひくしてあいこらしいなて

○今ものがたりくくといふものうちに

いつもくとまことよく違て

一　いそ山の森おりてこるかさ

細谷川のそ

一　越くまでもんよう人つて

人つてをするのそ

おもしろきことをそれをいふ

花いそ山のもりのよるみまの

おもひをいそくいそ山のもりの

空おもはいそ山のもりの人

つてをもとめていなんとりいそぎ
ゐ給ものの一ぬ申給とうこ
。今ぬ花鳥ゐいそ在の森よ志ゝる古ゑなと
のゝまゝふかい淵よ網よこもれる鳥淵とのうれ
奥なり百毛ぬ草ぬ八よ 鏡王女
緋房しのいそ在の森なれなるいそ
六帖ぬ八なを入ゝり志ゝる古ゑなと
のいそゝゐゝよ志の淵ゝるへゝれとのゝそゝるゝやゝそゝん
よゐ のゐゐ ねよゝゝゝゐゝよゝゝゝゐゝよゝゝゝゐゝ

一いそのかみ

ふくきのこゝろもしらの
ゆきのあけぼの

○今あるは時雨を
ある雨めれ 拾遺五二 拾遺

一ゆきまろ源の
ゆきやうとやかへ

○今あるは雨の
ゆき

一ゆきまろ
ゆくへのとをみ

○今あるは雨の
ゆき

一いそのかみ

○今あるは雨の
細雨の浦に

一人いそのかみ

○今あるは雨の
吾妻居らしめきてなり

○今あるは雨の
全集あるは

一ゆきまろ
ゆくへのとをみ

○今あるは雨の
ゆき

一いそのかみ

ふくきのこゝろもしらの
ゆきのあけぼの

○今あるは時雨を
ある雨めれ 拾遺五二 拾遺

一ゆきまろ源の
ゆきやうとやかへ

○今あるは雨の
ゆき

一ゆきまろ
ゆくへのとをみ

○今あるは雨の
ゆき

一いそのかみ

○今あるは雨の
細雨の浦に

一人いそのかみ

○今あるは雨の
吾妻居らしめきてなり

○今あるは雨の
全集あるは

一ゆきまろ
ゆくへのとをみ

○今あるは雨の
ゆき

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

。今あふみ一家百餘よりかりそめ
ながら人のこの方なりとも笑てて
あるまじきまれ亡姑なりとも
それもあれかゝりめる事也
や、聖徳ちなの行基山とつけ
行基羽川とつきたる川の
ひとく筆の峰もそれ
ほりもんとくの恩の刻
ぎり今のこゝろをもてもとやかう
くふかうるべし。古事紀中巻應神天皇御製長

歌云。

美本柿理能(ミオトリノ) 迦豆伎伊岐豆伎(カツキイキツキ) 志那陁由布(シナタユフ)
佐々那美遅遠(ササナミヂヲ) 須久須久登(スクスクト) 和賀伊麻勢婆夜(ワガイマセバヤ) 云々

又万葉第十三云。

師名立都久康左野方(シナタツクヤサノカタ) 息長之遠智能小菅(オキナガノヲチノコスゲ) 不
連尓伊苅持来(ツレニイカリモチキ) 云々

これらにて馬なりうまてい
なれをとねてゝ云々
のまゝとあや云々布と年と同額にて
れいもるゝ又布と留と同額なれい云々

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用

宣生

一 [illegible]の条うつろひぞそはりなる
細 うつろひてもてやゆろつ
。今集てのすの屋く〳〵心葉のち
ろひそそうつろひそそ
すの記ものみるかんいとみそ
とそく 之宮巻のうつ諸之
つろひはりなりいそうつろ
うろひするとはりなりとおう
うろひそ屋一さうのうの

一 あるよさそうてそう
細川家
一 ○ 今年四月
一 ○ 今年四月
一 花
一 ○ 今年四月
一 ○ 今年四月
一 ○ 今年四月

やうなるハ見ても想像をとるべきものやうなるとぞみえ
のまゝとゞめおくべきやうにもあらねバ
ハ一ツもなし

一
をハゝそれゝの月のことばのやうにくく
花

月ゝくまなくてかゝるまゝあとをそ山のまてなれ
○今年ハ閏月ありて花の盛ハ
古今の哥をもてくこゝろみるにハ数ふることハ
一
おもふくゝや

○今ゝ百首哥ありて一ツ

もれのおもふくゝよはゝてみるくゝよはゝ

琵琶行云擁抱琵琶半遮面

一
ゆふやみなれハ行ていたゝくやうにて

○今年ハ百首哥ありて御
一
ゝ
ゝ
ゝ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一まさりしゃん人かなんにんよりて

○今夢枕き亦回よ

一

○今夢古帖よ

一人のかしよりてもろもろ人なれそ

○今夢うそてハ苦うかる紙ぶよ別(ウクテ)れとか、せる夢ら

一

○今夢これハ昔の月よりものかなしきものそ

一月つもりもり雪せきみもなまて

三秋少なりせいたろうよ

○今夢顕況もてれしまた

一 [illegible]
○今案此周縁大日経疏一行記ニよるに仏ら波羅
一 [illegible]
あたたもとゝ記さゝて
てゝもゝてゝもゝ
細 蔦の葉なり
亟 木蝨
時 又云木ようつゝさゝる虫のう
切 斑身小蟲也
○今案こゝたゝすゝしさゝとゝ
もゝゝ木蝨とよゝふものゝそれ蝨の字ハ玉篇ニ斑身小
蟲とゝゝたゝよゝしゝとゝ推量せゝれ
蝸のゝよゝなものゝ仰れい寫あやまりて
の字のゝゝ玉篇ニ歩ゝ歩ゝ虫ゝ和名鈔云野王
按蝸 如秘反与黽同 和名太仁 今有小虫善齧人謂之含毒即是
たゝとゝ云虫い初ハ蔭ゝて記ゝ
てゝをゝれい雫餘ゝれ色ゝ
なゝものゝなり木ゝゝゝ
木ゝつゝたゝふゝとゝも家ゝいゝ
ゝゝゝ
一 ほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

細太の落一好歌別よあ
りとつる説を仏極よめき
るもとをみそとものすき
ぬて極よ如ふ歌ふおか
。今あるふまるもて
妹ろとつよられたのす
みこい船
なよ竹よ極さっつはきの
たる歌の方上よ志のせる
いびつまい志のとやくとの
なよ竹よ内ろんとしいよ
まるこるふるれる。とれそ
歌別やるをほよ如ることも
深のおるへ一首歌よ皮須こすと
長へる家中よ二そのあり
皮須こすいてるこせてまとよ
それいるよ泊て今のお前
如あよ内るてほよ如さうあはたよてへいう
首歌ふる平九よ石上如る田のはよ如もも
首平二よちるすさほよ如なて打ひるともよ
なる極よあるものをかりく極よあとつそれる

一 ゆくひくもれりゆく(イニシ)

○ 今ゆくてふうるはしのやく

ゆくてゆくてゆくてゆくて

たゆたふるとこれおなじ

事ゆくてゆくてふるおなじ

一 うるはしの頭

細 ゆくもとゆく 悪曜 ゆくゆくゆく

ゆくゆく今もゆくゆく数ゆく

ゆくゆくゆくゆくゆくゆく

○今案こゝに引ひ日本紀よ此行（ユクヒ）とゝり婇のそゝ
ことすることいまゝへようなり事やうり戦国策云
燕王謂藺代曰寡人甚不喜詆者言也（沅洲謂数詆猶欺也補曰詆誕宝反或作誕）藺代對曰周地賤婇為其兩誉也男家曰
女美之女家曰男美然而周之俗不自為取妻且
丈夫無婇老且不嫁無舎嫁而自衒敝而不售
（敝猶敗也無成事也）順而無敗售而不敝者唯婇而已矣
○いとゝゝかしこまりてなとゝゝ
○かゝる史記な速のつゝまことゝゝ
うといふや

一そゝきたりくん

○こゝろ延喜式第八大殿祭祝詞云引結幣（ヒキムスヒノ）魯葛
目能綾（ムツノアヤ）比取葺（リフキ）計草（カヤ）乃噪（ニギ）岐古語云（ニギ）
河瀬噪（ニギ）波（ハ）ゝくゝゝゝ

すり紫神紀よ溢のうまる
一
見えなりとうとて
○今集
孟
一
家持
○今集
一
○今集
一
かきあつめたるこそ
行
○今集
一
○今集
一
○今集

一 [illegible]
○ 今案 [illegible] 母のかみ [illegible]
一 [illegible]
のこころなり [illegible]
一 [illegible]
[illegible] 放埒 仙源抄 流離
○ 今案 [illegible] 暗惟なり 流離は日本紀 [illegible]
らむとよめるもおなじ [illegible]
一 いとわびしくなれ [illegible]
○ 今案 [illegible]
一 [illegible]
○ 今案 百首第四
[illegible]
一 [illegible]

坂上郎女

細

一 [illegible]

細 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

一いにしへありし
花
さくらこそ春の
時
物のさかりなり
○今まいて寝なり秋ごころを いまさらに
月のあかくいさぎよきをみるにつけ修
行せしときよりもいつそう感 時花ともの
いのなきを歎せられぬ事しかり
一
里記る犬ども
○今案
さてひる夜のわかちもなく

一何のりともいまも
○今案和名鈔云唐韻云韓 音幹 障泥和名阿不利 鞍飾
也西京雑記云玖瑰鞍以緑地錦為 今案即障泥也 後
稍以熊羆皮為之
一
このごろのやうなる犬のまて
○今案上よりまひろき犬とおぼしくて
おそろしげなるものとおもひたるよし
且一の条の第十三に長谷のまて
いあさてこゝに侍ることとこゝろえて
枕ざうしのにくきものにおもひたる人のこと

大いらもろこしの

一 いくさの世といひそんとて御門かくらゐ
はいつこをかさすらめの山ともとおもふ拾遺
○今更何をの思ひ出もなくて
ハにとやかり物思ふ人なんとそ
申ためしくく
一 年ふれとくくり年の此年も沙弥
御門かくらゐをすてゝ入給ふ
多くもんゆくへく入給ふ何をの
のかの山ともとかの山ともとの所なく
いつるをとやせて御らめの山ともの
も法を尊とうとふり 中将の集

いつくもなくれとうるをねの
或法を尊をなさんとて
さくもあるよなう忘却
そくくといふくとて 帝の集
○あれ病をしまといすつもなき
○今更なきそなるそんハ入水
一 なくてやくんりものするろ
おハせとつ

○今昔最勝王経捨身品に薩埵王子の餓虎に
身を投るもの

一 ものゝこゝろをしらぬ人のこゝろかな

○ 今もつゞけ侍ることゝ思ふにおもてゞてなりの

一 宿よりおもてゞて詠りこと

細 なき人の宿よりおもてゞてなりけれ

○ 今も此詞を用ゐて

我為に君それとうなりの人のなき人の

宿よりおもてゞてなりけれ

行とし物よのこゝろなくも告よとよみ

侍りて三つのもゝりて笠の

一 なき人の宿といふ詞を

一 物のおもてゞてなりけるとも

細 右近なくなりの事よ句の

力人なくの事と思ひ

時 おもてゞてなり

孟 此使のやよ此宿毎の

よのなれとも思ひなりけり

○ 今孟津よりおもてゞてなりの

とゝ詠をぬきたれ使とものやうにとこゝろえてあり

一 陶てゝいとつゝ侍りて

いつそうこのことをおりしもつ

○今案

一

これとこそしてくせんとあたまま

○今もて世とあひきこのうる水の縁よりて

一

門文とやきうしもし

○今多句句門句伝於汨

[illegible]

一

何れかおとれおとれおなじ

○今多人よたれおとれおとれおなじ

なるもて伝よみのまよりおとれおとれおなじ

八洛舟よおとれおとれおなじ

おとれおとれおなじ

まてのこれおとれおとれおなじ

たそうまれおとれおとれおなじ

一

此ものきるおとれおとれおなじ

亜信側かりものくしおとれおとれおなじ

○今多放俗かよ放逸舟昇信なんとそ

侍人の今ゝとゝいふを
一 大将のえいてもいくさ
重箱を用ゐ（以下欠）
○ 今ゝこのいりふいふ毎又は女一宮のをあり
てやゝ（以下欠）
一 そもゝゝこひなゝ人
○ 今ゝ
ゆきゝゝまていふうみるも
ゆゝにもわゝのゆゝ
一 花とゝゝゝのみゝ
○ 今ゝ東ゝゝゝゝとうゝ
一 いとあはやかなる松ゝる
○ 今ゝ細殿の局ゝゝ
のゝをおゝゝておきゝ
さゝゝてゝゝとゝゝ
そのゝりのゝとゝゝ
一 なゝはいゝゝゝゝ
○ 今ゝ東ゝ詩斷腸
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

一 いつさいの
孟威攬 仁の幸

○今案いつさいといふのうたて瞋のうへに
ゟ暗推とゝんてゝう威のうへの音ハ為
わ上ゟ音と訓とゐてゝく威攬といふ
一 ゟいつさいさわさる
孟 退く也

○今案ゟ和名の中ゟこのゐうへ
いつこのゐるとゝるもゝとゝるゟゝ

わこしきにて湯をとりてのむ

一 ゑとやくこと七ツ

○今多芥子焼するに護摩なり麝香等を
除きるよし白米をもちひ蜂蜜日記あるを
しやこのやくをもちひる事を見物の上の
事の書ぶりにていふもの
一 はさもこやくにて
○今多著染領(ツキリヤウ)ころあるをまて
一 なのはな(菜花)あぶらにて

○今多の作麻布がらやうの物よりとりて
とれるものの名にてなりこれをこそ油
なるべしなどいへれはさらんことの事
とぞいふ

仲文宗案

一 はさまり人ことのそうなるなり

一 細谷舟のよきさまなるものとぞ

一 函よき陶のよいくてとぞ

○今宮の御祝の中よりはじめ

一 終よくはいのことくでとなりあつて

○今宮ほいのことは如すて

よ如なり一さにや

一 世中よれ有そうなつくく

○今宮六帖よ

いつれもそれ〳〵おもしろき

一 波ゆのさうよ

○今宮さうしんてんきの

上の号しめれてしまうはまてとねるひとの

こつこはくる

一 当となる家の内おやこ流と云てこゝろみて

ぺう家 豊く家よ

女子内おつるこゝろやろれいそてこゝみてせてねる

百首の二

一 ものこゝろこゝろせうまをとなるものよ

一 ○今宮

ある云々今しばらく山のつれのもとめもとまれこなたやよ

○今案小兒のこゝ等(イニシヘ)の蓮(ハス)なる和名鈔第十七菓類云
蓮子和名波知須乃美

一小鷹(コタカ)のついて

河小鷹(カハコタカ)将(ノ)事
新點

○今案河海(カハウミ)より引(ヒキ)ならす(ママ)の事よハ始鷹(ハツタカ)将(ノ)
とおもふ小鷹将とは但始鷹将(ハツタカノ)ことなるそも小
鷹将なり

一かくらなくこんなのなんくらとそいふ

○今案いつこ事訶(コト)なるとこゝにかりぬまて

一かでこそしかるまもおろ

一萩のまよれとぬほとくつゆ

○今案
萩見のかつゆつけこもとめあるこゝにいふハしかの

一いとさまざまいたとこなりつく

一○今昔万葉抄九ノ巻ニ有ル笠金村歌二首ニ同ジ四巻ノ
笠檀越トアルモノノ事此ノ笠師ノ事ニ非ズ

一詞ノ橋ノヤウニカケワタシ

○今昔唯南ヲ云若ハ行(アル)ニ獨梁(ハシ)不(ヲ)為(ニ)無(シ)人不(ハラ)競(ニ)其容(ヲ)ニ

六帖ニ橋ノ事ハ
ハノ國ノ難波ノ國ノ
ナドヨメリ

一くいくもそのほとりのこと

○今昔ニ此ノ事ノ有ルヲ思ヒ合スベシ

一所ノ代ノモノヤ

悪(サガ)

○今昔神代紀ノ神性ノ
ホドヨリ人ノ上ニテハ記スベカラズ
日本紀ノ悪ハ代ノ字ニ
ヨルベシ別義ナリ不祥(サカナシ)日本紀不良(サカナシ)日上又休祥(ヨイサカナシ)日上
カクレテ此代ガヨイトイフ
善トイフノ事ニテ代ルトイフ悪ヲ不

夢浮橋

狭衣四 そうずや宰のやうなるものいふをそばめて

一 きゝ侍らいやことゝ

○今案 高麗之奇よ

みちのくみなとのあやしきをかくいふ

此ことばの作者の奇なり

平めくにくきことなり

一 なよ竹のとをより

猛生王家無等倫 日本紀 王之子孫也

○今案 なよ竹の句は未摘花のまきよりこゝにうつ

…ようにそうり 日小王家むい清便こうハ流通ヤと
…ゆくく河を杉へた王家流とつかる
一小野よいてみくもちりよれ青葉のやじりて
。今ものもの葉ものなる山とまるもの
山を紅葉の山とりし秋の花おる山と秋の山と
いつも五葉のまも松頭守
垣うて冬ひしてこかりまる元ま
ゆまる山れ葉もとの青葉の山とりてまの羽
とまあくらけのれ 古事紀中云本牟智和氣御
子到於出雲拜詑太神還上之時肥河之中作黒樔
橋仕奉假宮而坐尓出雲國造之祖之名岐比佐
都美餝青葉山立其河下將獻大御食之時其御
子詔言是於河上如青葉山者見山非山若坐出雲
之石垣之曾宮葦原色男大神以伊都玖之祝大廷乎
問賜也 これ歟山 五葉ものハ

三 原王

秋の夜のうつりゆくまにまつ虫のこゑはくさむらにして
もみちするの山を山鳥のこはくるねの山のをはくさむらにして
青丹よしならの都の丹花色のうつろふ時にあへるかも
くまやまの歟 時花 若枝 近江なる青和山をとりて

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用

右源注拾遺七巻一覧湖月抄之次率尓註愚
意以備他日校考者也（後加大意一巻共八巻全）

元禄九年七月十九日　密乗沙門契仲

同十一年正月五日一校畢

特別
そ-7
9

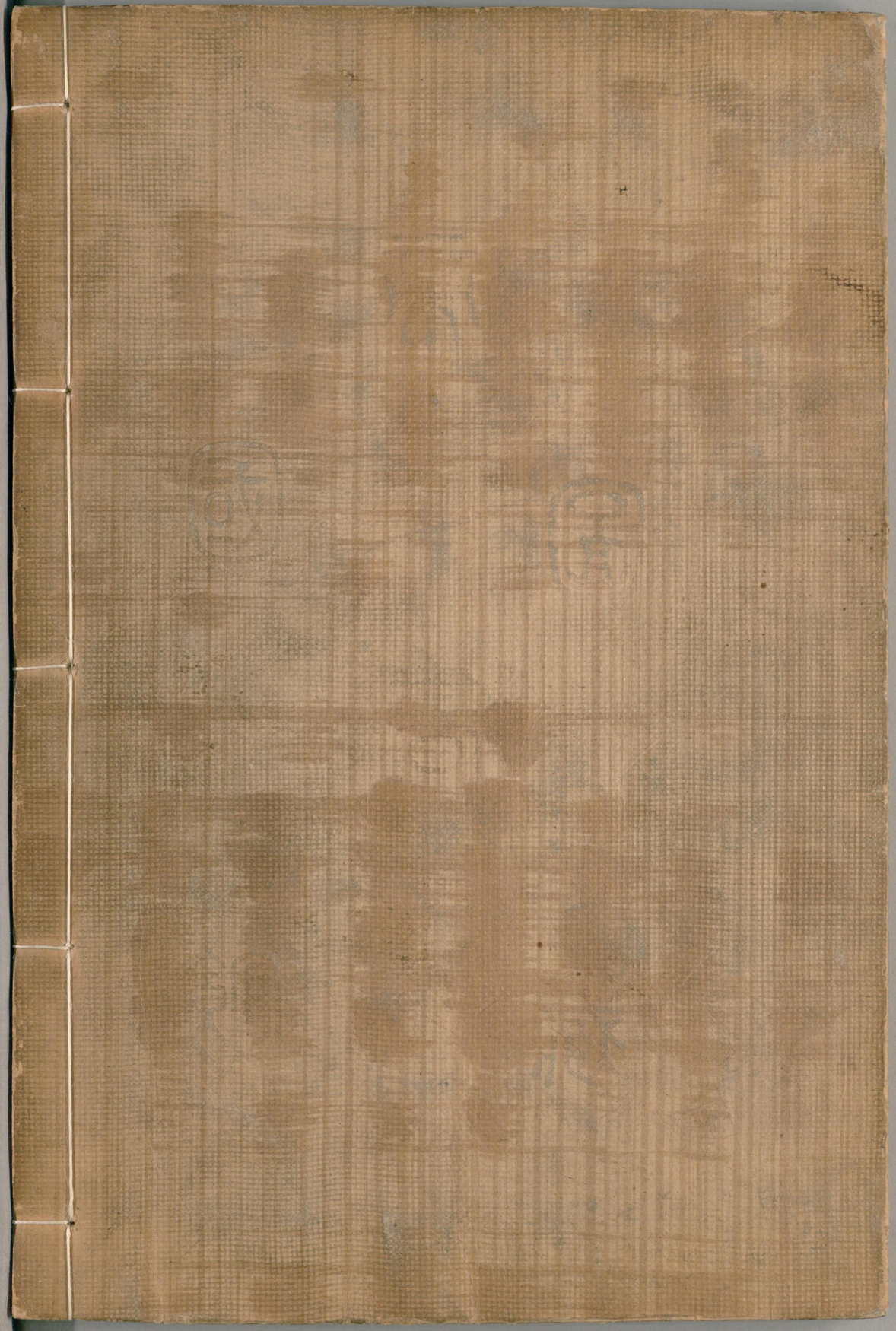
国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

特別
そ
7
9

国立国会図書館　　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用